

小湊鉄道駅日和

岡本 雄司

Fine days over Kominato Railroad Station

OKAMOTO Yuji

Abstract

The work I am now doing here is based on many domestic stations and its surrounds printed by woodcuts. "Kominato Railroad", which was a motif of my work in 2003, is a small local train service which runs in the Bouso area in Chiba. The train passes through a landscape of rice fields and mountains, conjuring up an image of the past. During holidays there are many visitors who come to look at those places.

"Kominato Tetsudo Biyori" is a collection of postcards including all the stations on the line from Goi to Nakano. In this booklet I would like to present both my drawings and my work process.

Key Word: Woodcuts, Postcards, Kominato Railroad and Station buildings

[要約]

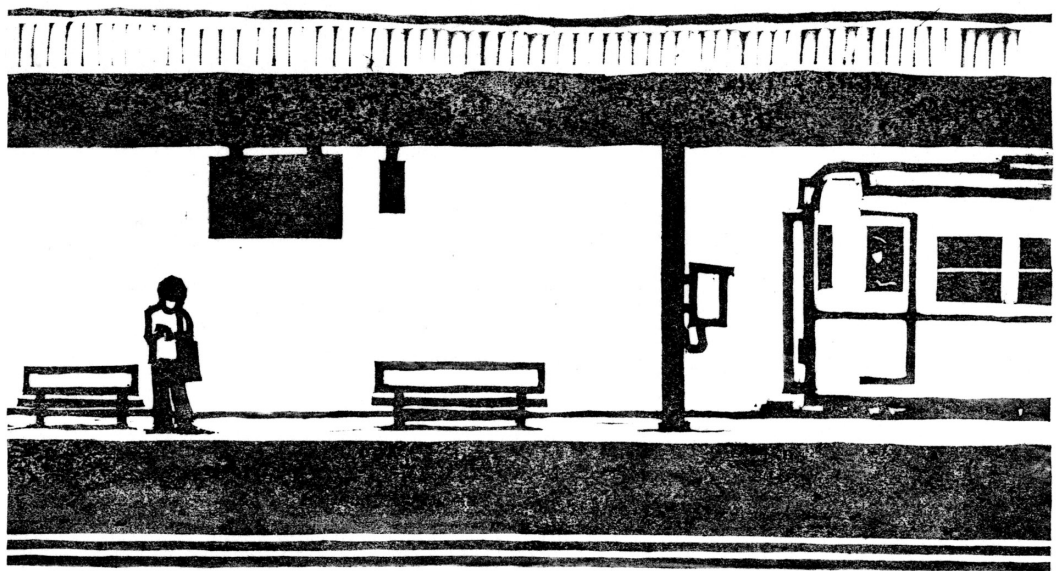
現在、木版画の技法を用い、主に日本各地の駅や駅周辺のモチーフを中心に制作活動を行っている。

2003年に作品のモチーフにした小湊鉄道は、千葉県房総を走る小さなローカル私鉄である。この鉄道は、田園から山間部にかけて走る沿線の風景に加え、永年大切に使われ続けている車両や駅舎がひと昔前の景色をつくり出し、休日には遠方から鉄道風景を見るために訪れる人も多い。

「小湊鉄道駅日和」はその小湊鉄道の五井駅から終点上総中野駅まで全18駅をポストカードにしたものである。

ここでは、現場でのスケッチから作品に至る制作課程を中心に発表する。

キーワード：木版画、ポストカード、小湊鉄道、駅舎



光風台駅 部分
表現素材：雲肌麻紙、墨
技法：木版墨摺り

はじめに

「小湊鉄道駅日和」ポストカード制作について

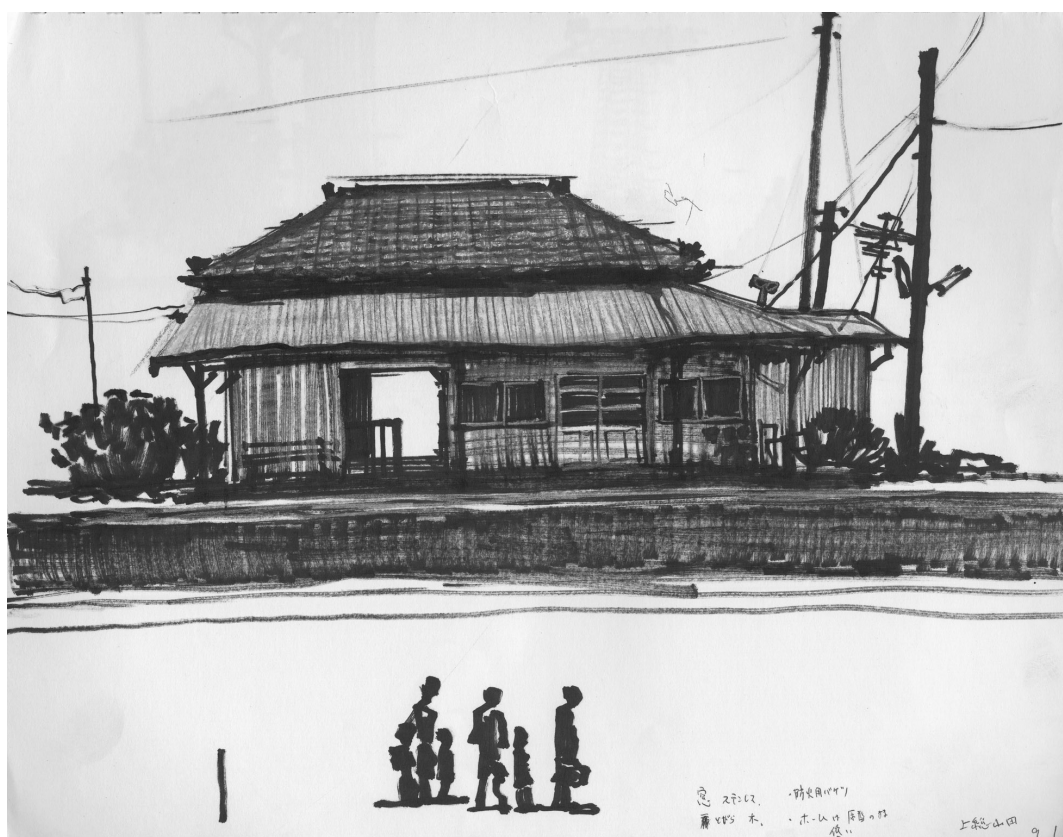
これは小湊鉄道の駅をモチーフに制作した作品（版画本「終点まで」と作品一点一点を額装したもの）を、実際に駅を利用されている人達にも見ていただきたいと考え、駅待合室を利用し展示出来ないかと小湊鉄道の鉄道部に相談したことが始まりである。その際に、展示するだけではなくポストカードとして販売することで、通勤、通学で利用する人や行楽で訪れる人々に手軽に幅広く見てもらうのはどうかと、鉄道部の方から提案されたことで実現に至った。

作品は現場での感動、制作の欲求から始まる。そこからスケッチを重ねることで、そのもの持つ空気感やイメージを掴むことに専念する。また空気感などと対局にある具体的な物の比率や細部の表情を記録すること、そこで生活している人々が、どのような行動をとっているかなど、人の動きを観察することも現場での大切な作業となる。全体感とそれを支える細部の観察を同時に行うことで、実際の制作でイメージが膨らむように心掛ける。人々は携帯電話で話をしたり、メールをしたり、本や新聞を読んでいたりと、時刻表と時計を照らし合わせたりといろいろな行動をとっている。駅によっては訪れる度猫がいるところもあり、また別の駅前では商店の犬が放し飼いにされていて、観光客に可愛がられていたりする。そういった一つひとつの物語りも風景の大切なひとこまとなる。自分の作品を見てくれた人が、その猫や犬の存在を知っていたらどんなに嬉しいかと思う。実際にそのような方と会い、話しをすることは無くとも、作品には作品を通して人と心を通わすことができる素晴らしさがある。そういった意味でもこの作品は、この駅を利用する人達のそばにあるべきで、小湊鉄道に馴染み、沿線の方たちと少しでも作品が身近になることを望んでいる。

1. スケッチ

スケッチの一番の利点は写真と違いモチーフの取捨選択が現場で自由に出来ることである。例えば写真では駅以外のバックの風景なども同時に入ってしまうため、情報が多く、そこから改めて作品のイメージをつくり出すことは非常に困難となる。細部の表情に関しても、写真だと構造が分かりにくく結局使い物にならないことが多い。作家の表現方法にもよるが自分の場合はスケッチによって作品のイメージをつくる事がほとんどである。

道具は油性マジックの太い方を使用する。黒が強くなるので、スケッチの段階で版画作品にした時のイメージに近付けることが可能である。また油性マジックは細かく描けないため、かえって視点が細かいところに行き過ぎずに全体を捕らえることが出来る点や、短時間で完成させることが出来るためイメージがブレにくいことなどもあげられる。素材的にも適度な固さがあり、筆圧によって線の強弱が大胆につけられることや、擦れなどの描き味が自分にとって表現しやすいこともありここ数年はこの画材を使用している。



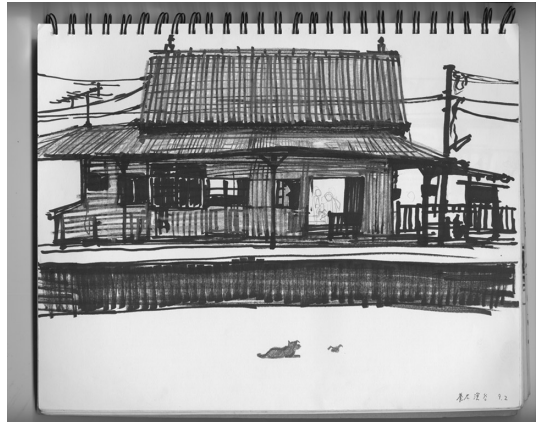
上総山田駅

表現素材：画用紙、油性マジック

製作年月日：2003.9.1



飯給駅(いたぶ)
山あいにある無人駅



養老溪谷駅
唯一の観光駅、養老溪谷温泉がある



上総牛久駅
沿線の中心駅、利用客も多い



月崎駅
向いに商店が一軒ある静かな駅



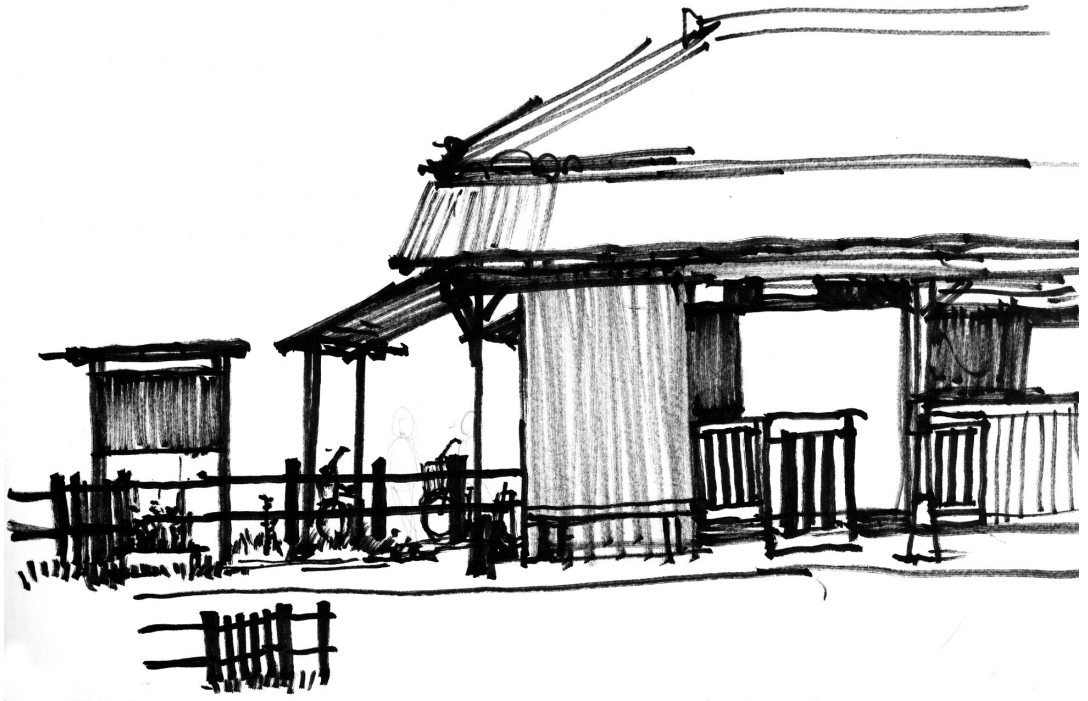
上総久保駅
印象は違うが飯給駅と同規格の駅



高滝駅
猫が数匹餌付けされている

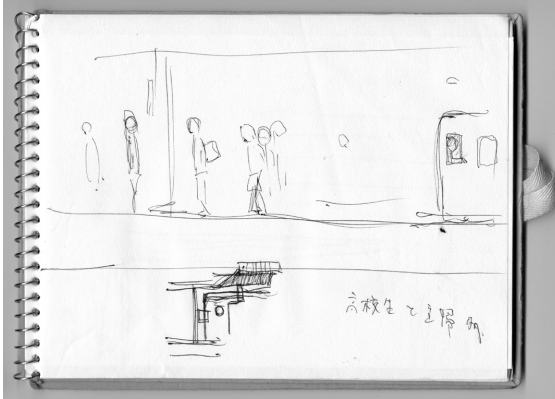
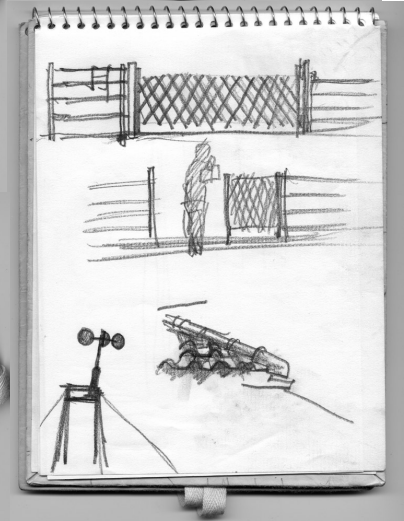
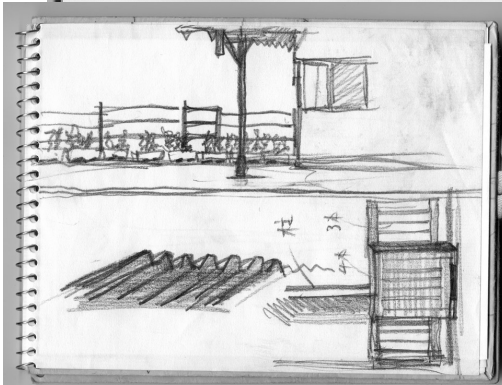
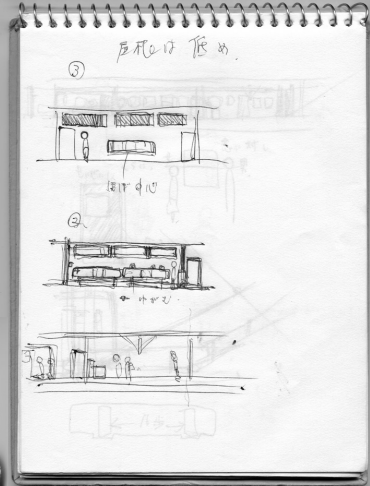
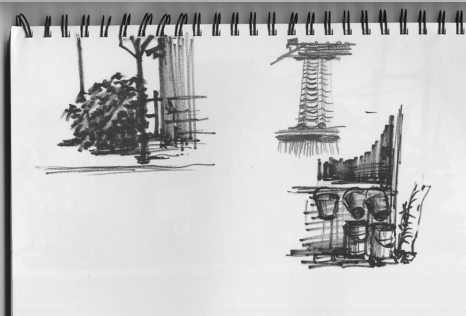
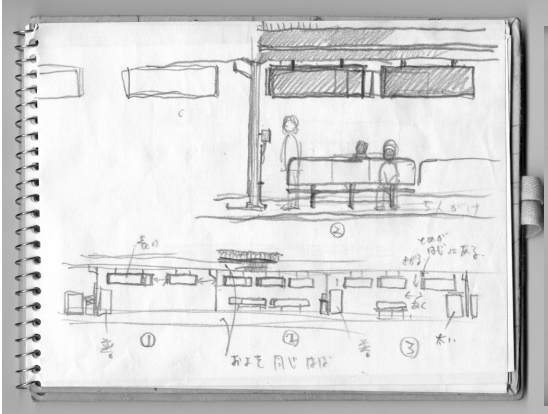
2. 細部のスケッチ

次にはじめに行うスケッチでとらえきれない細部の表情、各駅の特徴的な部分や印象的な部分をスケッチする。また、ものの比率やプロポーション、人に対してのベンチや自販機の大きさなど確認する。ホームの屋根を支える柱間の距離や駅舎の大きさなどといった目で判断しづらいものを計る場合は歩数で行う。



里見駅 細部スケッチ
表現素材：画用紙、油性マジック

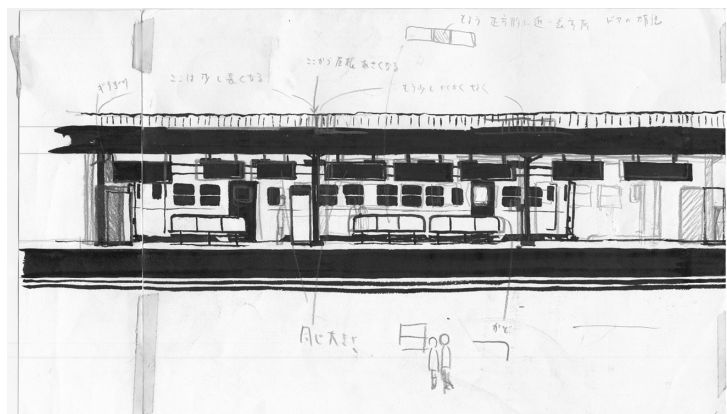
スケッチパターン （スケッチする内容によって表現方法は異なる）



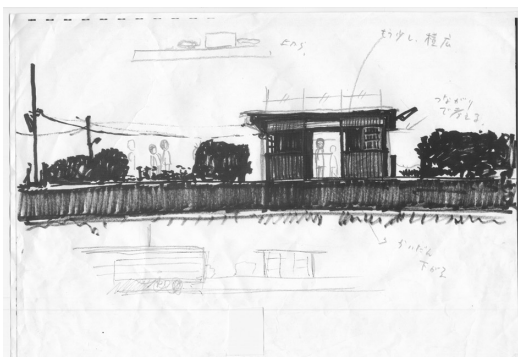
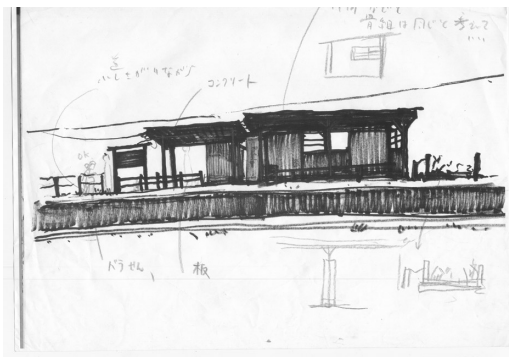
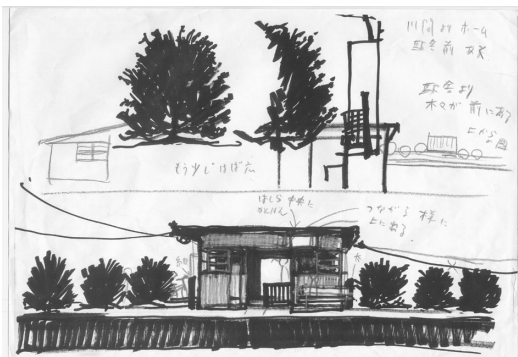
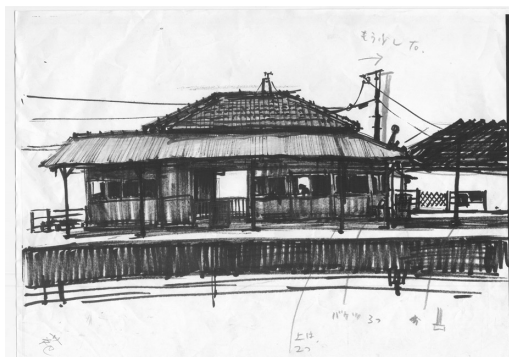
3. 修正、補足

修正等かき込みが出来る様にスケッチをコピーし、現地で確認を行う。

素材や建物の構造など、知っておかないと不自然な表現になることがあるため確認する。特にそれぞれの物が木で出来ているか、コンクリートで出来ているかなど材質を把握しておくことは、版画にする際、彫刻刀の掘り方で素材を表現するために必要である。

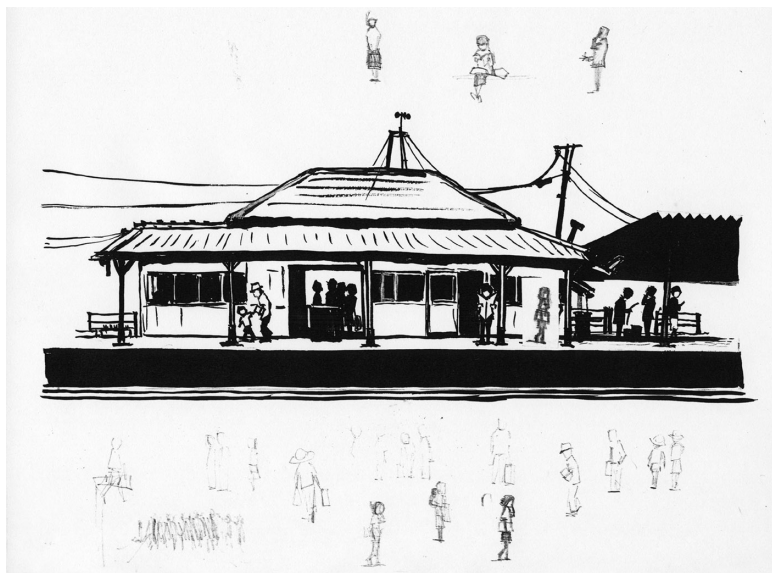


表現素材：コピー用紙、色鉛筆

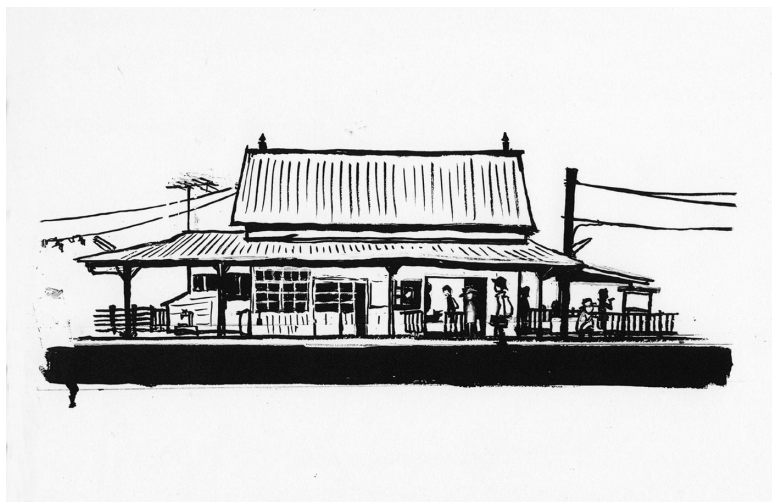


4. 下図制作

18駅の統一感や墨一版での表現方法などを考えながら、そこに駅を利用する人々を加えていく。利用客の人数によってその街の大きさを表し、学生や観光客など駅を利用する客層によって駅の背景にあるものを表現していく。



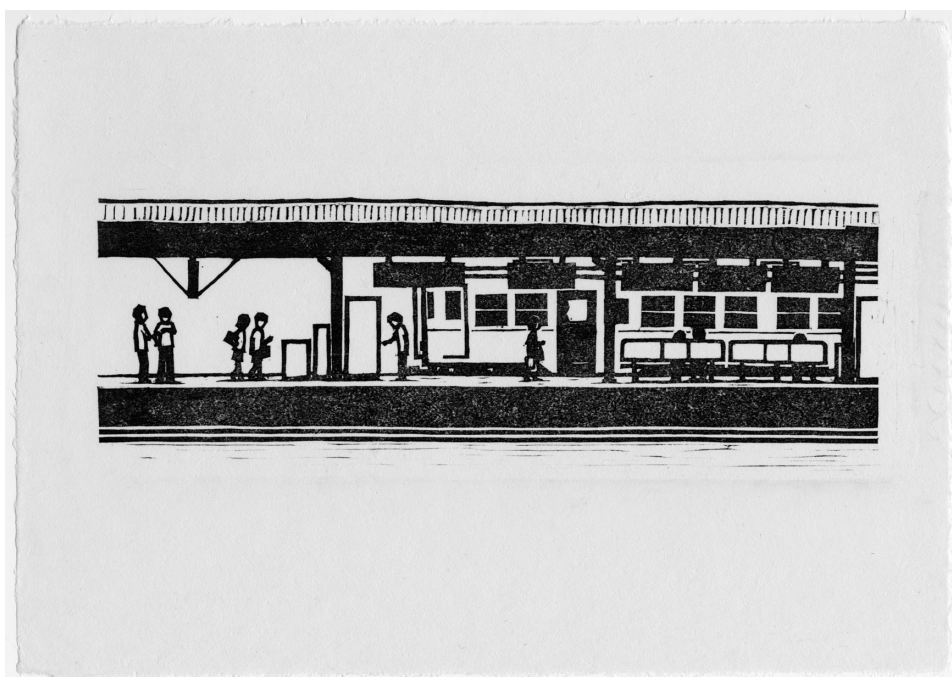
表現素材：画用紙、墨



5. 完成作品

小湊鉄道の駅は上総山田駅や里見駅などに見られる駅舎の形態が基本系で半数近くこのタイプの駅舎であった。それが各駅の利用方法と共に少しずつ変化し現在に至っている。もともとは木製の窓枠が駅によってはサッシに変わっていたり、高滝駅の様に窓全体がベニヤで覆われていたりする。また、上総牛久駅の様に駅舎横に待合室が増築されている場合もある。その小さな変化が各駅の表情をつくり出し性格まで違うように感じさせる。

制作に関してはスケッチから駅の印象を捕らえるまでは駅が主であったが、下絵から版画の制作に入るにつれ自然と駅を利用している人々が主が変わっていった。そして絵の中に自分も紛れ、列車を待ちながら本を読んだり、自販機で缶コーヒーを買ったりした。

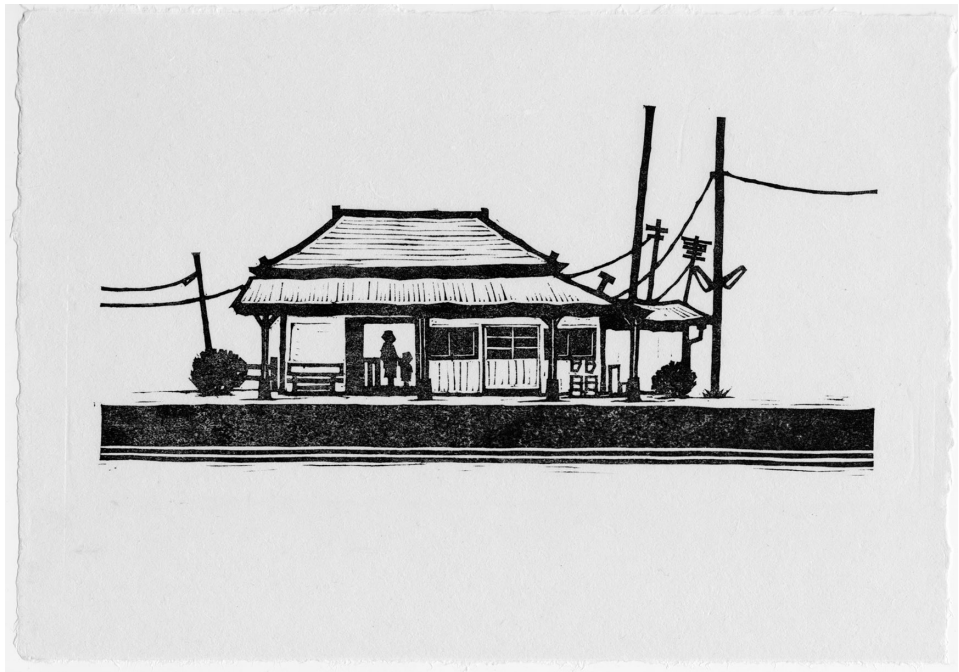


五井駅

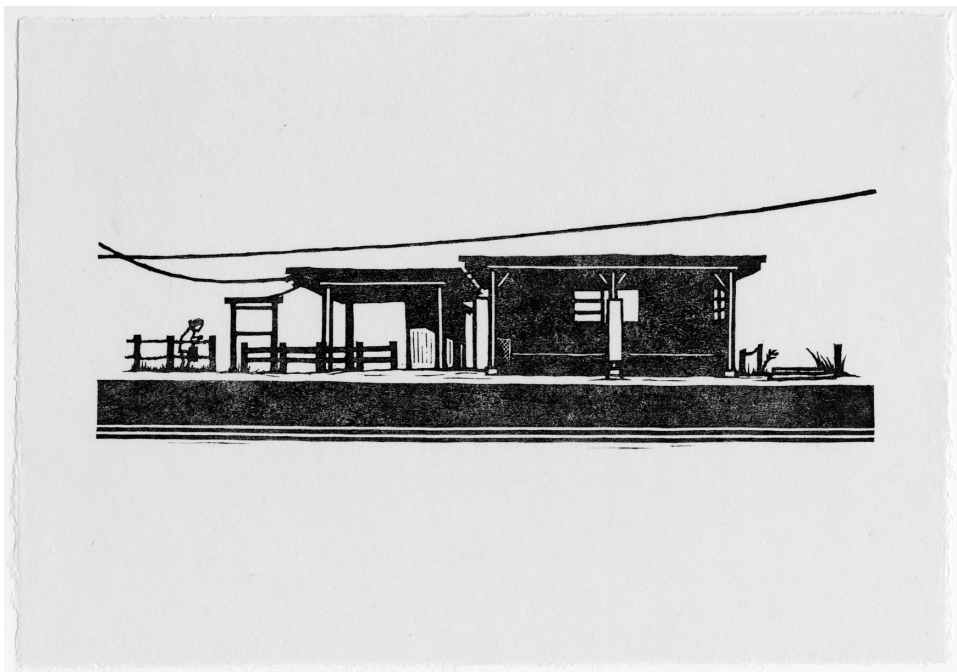
365 × 257mm

表現素材：雲肌麻紙、墨

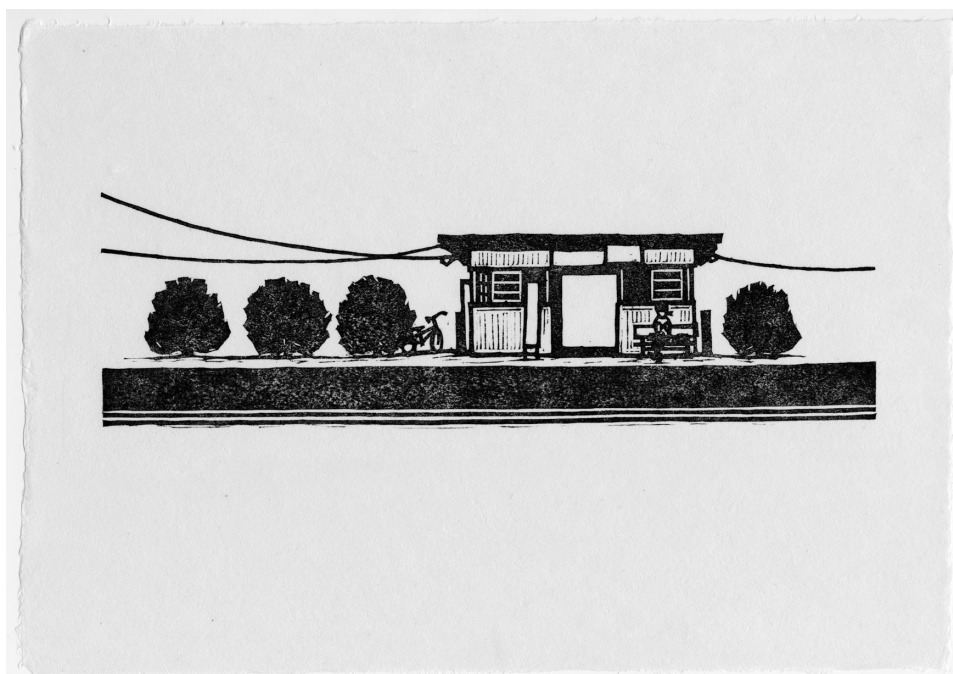
技法：木版墨摺り



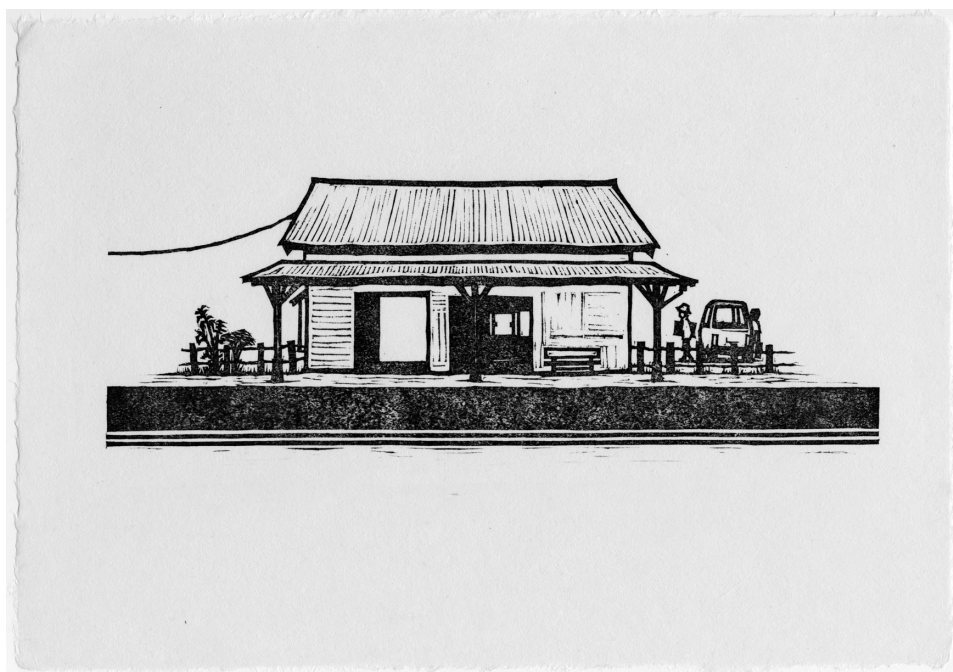
上総山田駅



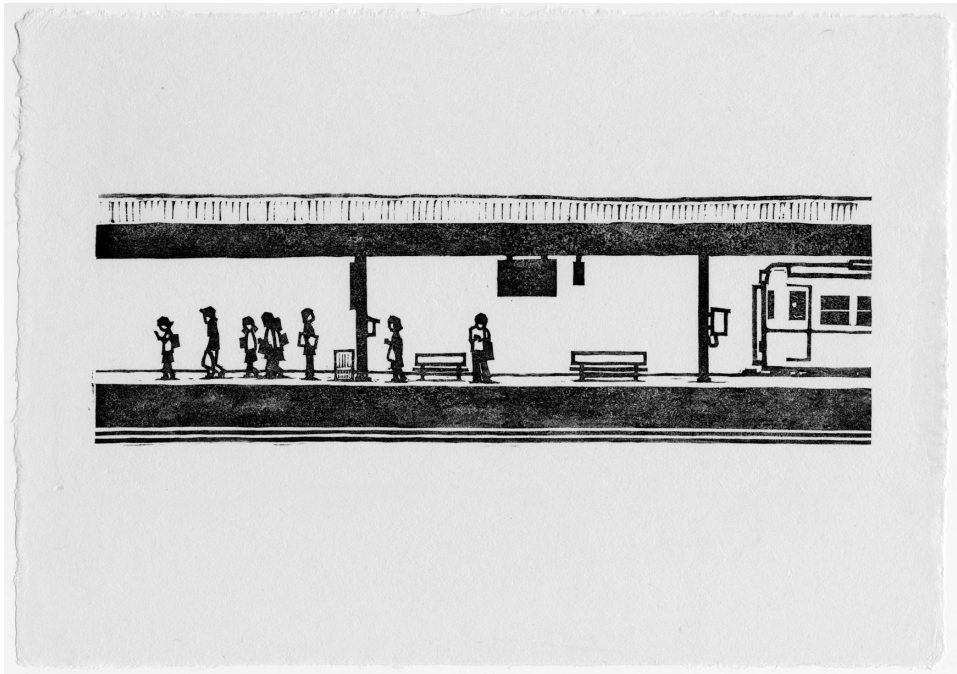
上総久保駅



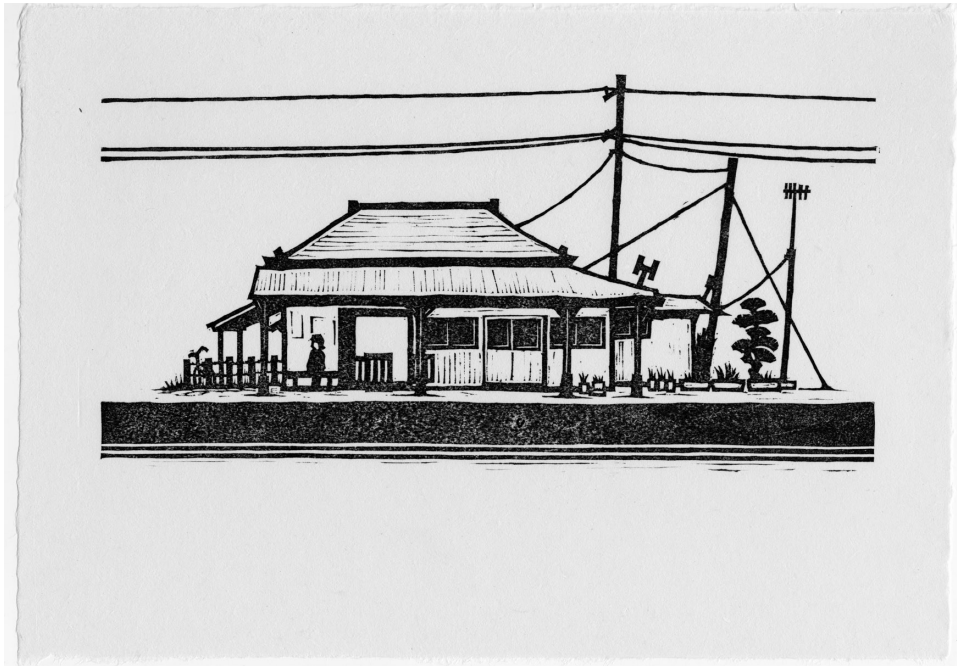
飯給駅



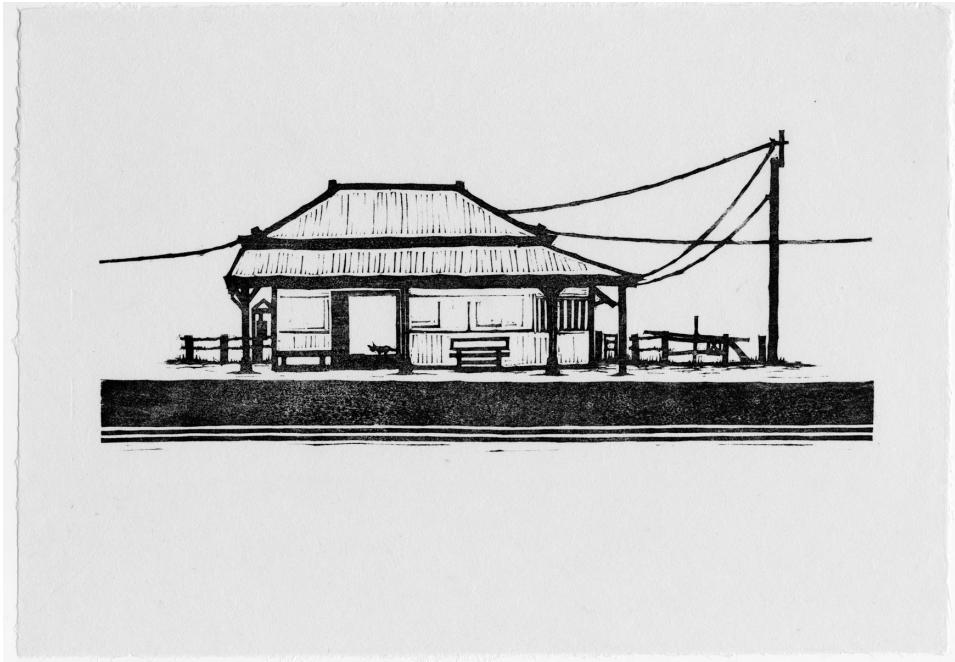
月崎駅



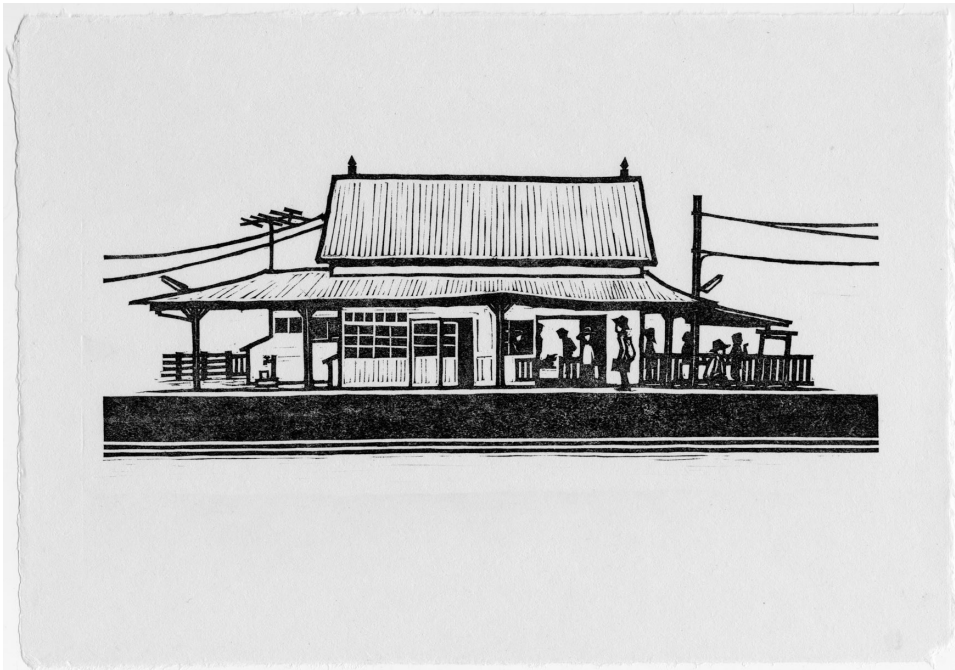
光風台駅



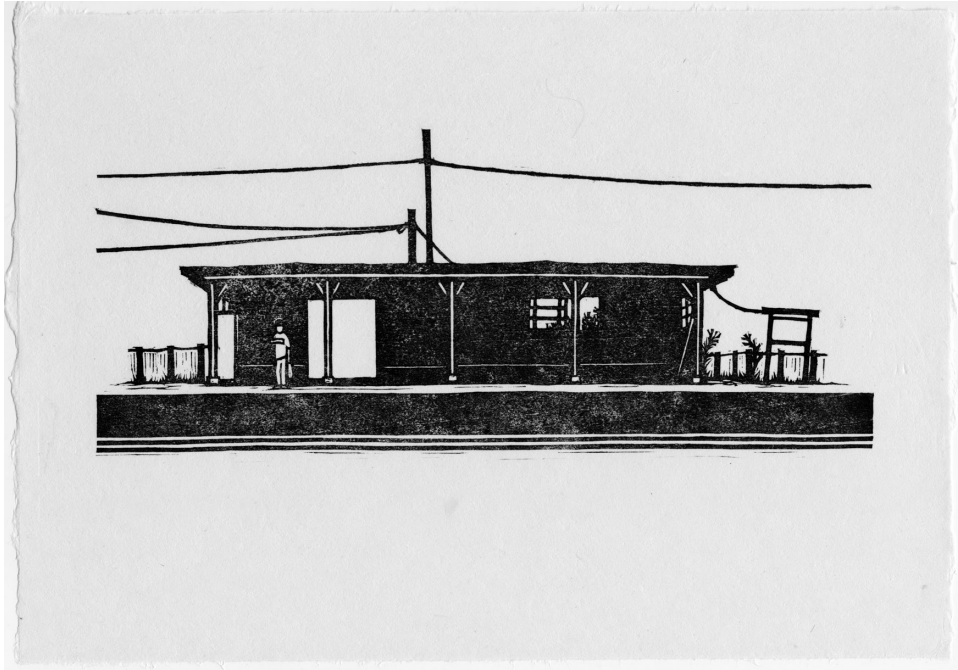
里見駅



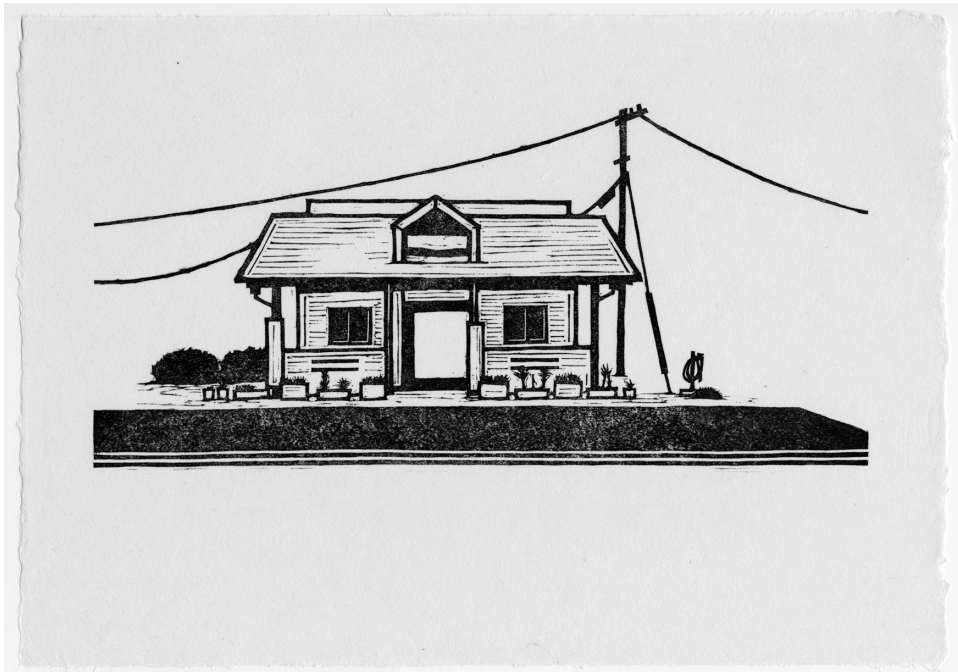
高滝駅



養老溪谷駅



上総大久保駅



上総中野駅



小湊鉄道駅日和 (ポストカード)
148 × 100mm × 18枚



終点まで (自装版画本)
281 × 380 × 25mm
限定20部

6 . 現在の小湊鉄道 (2005.9.12 撮影)



海士有木駅



飯給駅



馬立駅 待合室



高滝駅の猫



海士有木駅の駅員



海士有木駅 待合室

7. おわりに

全国にはまだ見たことのない駅風景が沢山あり、今後どのような風景に出会うのが楽しみでもあるが、その中で廃止、改築などにより魅力的な風景が思った以上のスピードで失われている。そういったものをどう捕らえ表現したらいいか、記録というものも考慮に入れ制作を続けていきたいと考えている。